背語兵庫鑑

へ13
2378
130

遠
2378
130

繪本賢問　伏棄

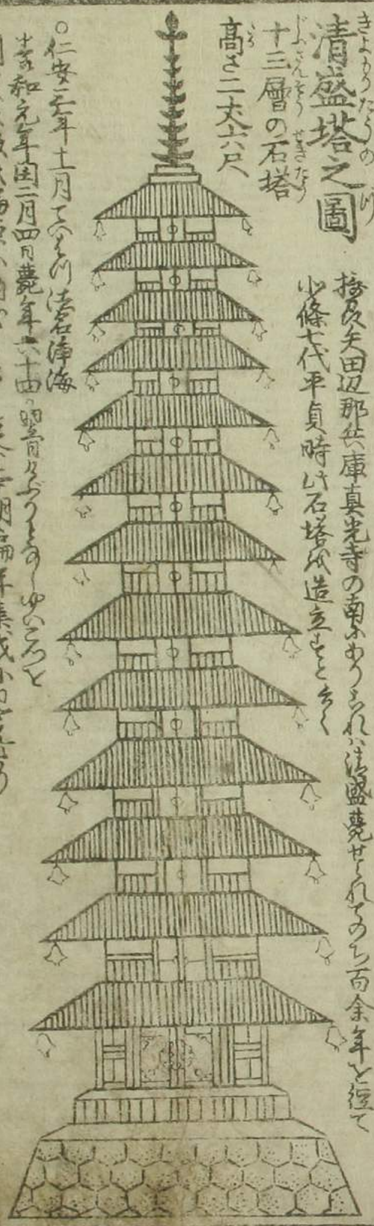
田所町　鶴屋金助發行

這稗史い宿昔平相國清盛入道都と福原に遷しゆひ兵庫の築嶋と造立せ玉ひ夜門乃博士阿倍泰氏が筮占呼ふよりて三十人の人柱と立んと議せしに小松内府重盛遺愛の美童松王小童とらくの三十人の命ふ代ゑ人水底ふ沉しゝ龍神感應乃德篤して竟ふ築島落成ちてし支蹟と記と實ふ義理深妙の小説なれ〻ハ復仇の稗史と月と同して讀みふべらゝ次

江戸　式亭三馬　欽曰

清盛塔之圖

十三層の石塔
高さ二丈六尺



按ふ矢田辺那兵庫真光寺の南ふあるもれハ清盛薨せられてのち百余年と經て少條七代平貞時い石塔ハ造立せと云

○仁安元年十月二十八日法名淨海
出家和元年閏二月四月薨年六十四　墨書ふ云ふ
圓実法眼ハ福原ふ細むと云く支ハ本朝編年集成ふ見えたり

平相國繁榮圖

大相國
平清盛入道
淨海肖像

東野遺稿小平相国の論一篇あり其論

相国於王人功罪相半云

時運のうつり
丘馬の位と
就て年考
勇名とゝく
国家のち復と
あり保元平治の
戦功ありの後
宜しく
威権をたのみ上皇を
悩まし
くめ冥句と

清盛
安藝守
法体
此圖い例の繪虚言と
えゆうの

▲矯めて
事ぶるの
大ことろ
ちまこと
つとめ
まの
ちの
陰戸の
戸と
清盛
日の
陽の
薬と
ことの
ことの
ことの

白柏子
佛御前
朗詠
君が代は
千代を
経ぬべし
姉祇王
妹祇女
清盛
愛妾

摂州難波入江住人
三松刑部左衛門
國春後剃髪
入道して
浄蓮法師

三松長者
息女
明月姫
うめと小車

吉士誘火

三松長者
令室
花月
御前
飛花
落葉と
観ずる
体

今年花落顔色改
明年花開復誰在
丹波國
野瀬庄司
仁和寺
職人舎兼
舎兼良等
蜆名五郎氏貞

建礼門院侍女 横笛 執念黄鶯に着も

高野山うぐひす堂乃由来
滝口入道
小松内府重盛侍臣左衛門
茂頼男斎藤滝口時頼

金剛太郎義門

野瀬蔵人
舎兼郎等

攝州神崎住人葛葉庄司長清嫡子
近藤七郎
重友

ちらすなよ
ちらすなよ
枝乃門
あけぬくれぬと
いそでまちかな

國と傾け
城どりぶけー
漢武の昔雲と
ゆり雨とあらんと心迷
楚襄の古も千秋萬古
北邙の塵となるめるぞや
重夏が戀慕の迷夏て
發心の因とのしぞ
有難き

明月姫琴と鳴して幽蘭譜と奏る支巻中小あり桜ぢ小幽蘭譜中古我 日本小傳て公卿專ら奏のみ室町殿の乱に亡びく今小傳ず 本邦の樂ハ皆周漢の遺音也て隋の代小傳さく今唐山小絶さり故小 國朝の中古小ハ雅樂盛に行れて人皆こを玩弄支國史小詳なり亦拾芥鈔宋史の日本傳等に委しく見えさり當世の琴曲の屬小ていず琴も今の琴小非ず古の琴ハ鯖尾琴にて樂に用さり今の琴ハ箏の琴紫琴と呼て寛永年間ハ橋撿校と云者樂の筆に變ずて十二組と作り其製甚だ新なり幽蘭譜及び古樂の支俱に秘説あれども古に聞ざる支なるべしく贅せず

如意輪觀世音衆生濟度のため仮に松王小童と化現し給ふ故小松王水底に沉て光明赫奕として諸ササ来迎あり微妙の音樂天ふひゞき無香芬々として薫ハ空中より五色の花ふりて紫雲平沙にたなびく時に不思議や松王が容如意輪觀音と現ずるく光明あるゝ紙くらふと云云

松王小児石唐櫃ニ入て水底に沉む圖

讃州香川城主
大井民部大輔嫡男 松王小童

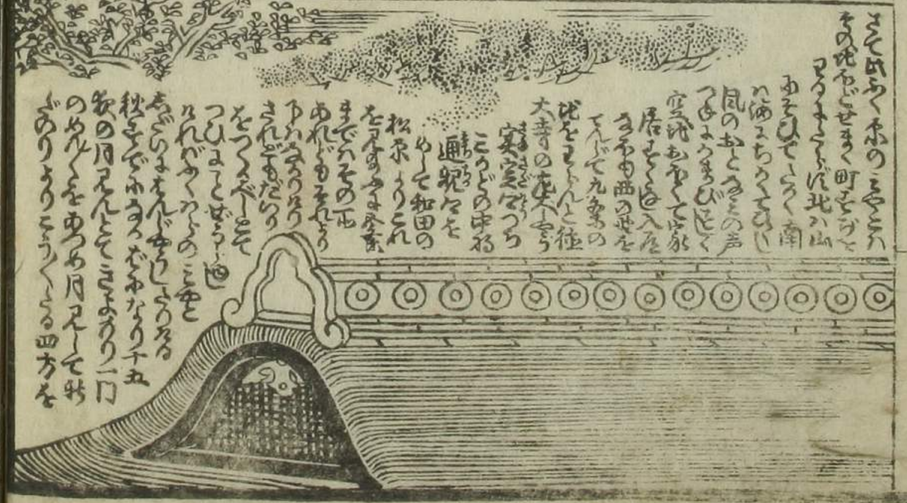
經石の文

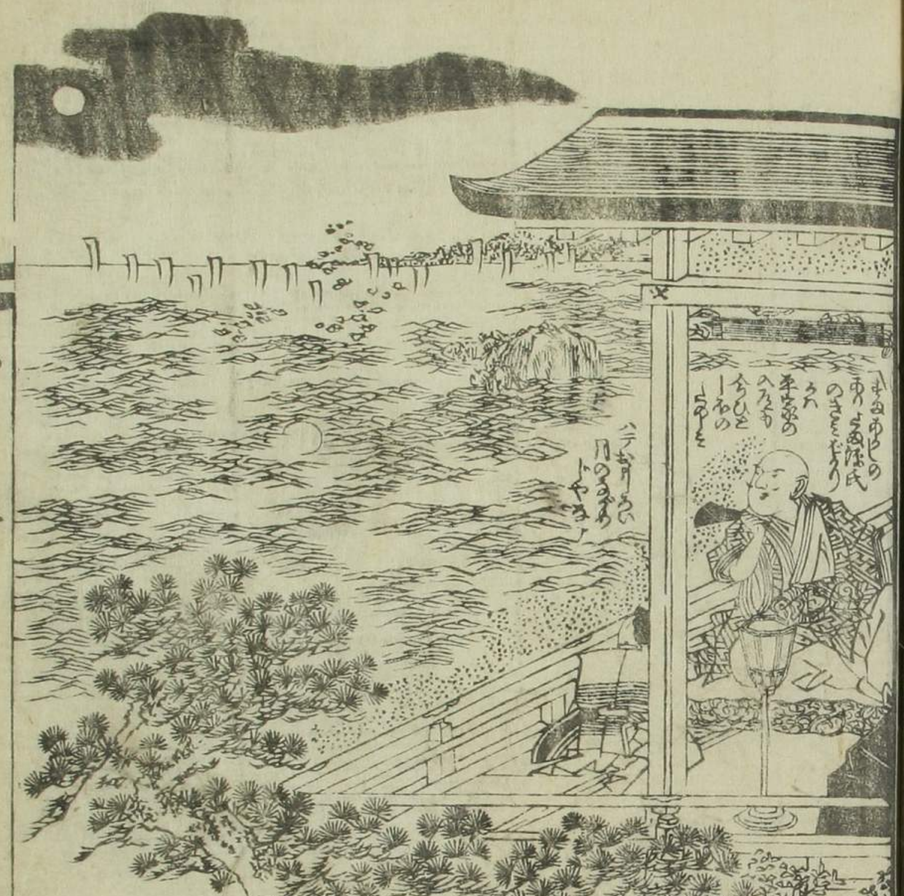
大小ノ石ニ法華經一万部ヲ書写シ三十人ノ人柱ノ名ヲシルシ別ニ沉ノ石ニハ年号月日竜神納受願文ト六字ノ名号ヲシルシテ氏ニシヅム

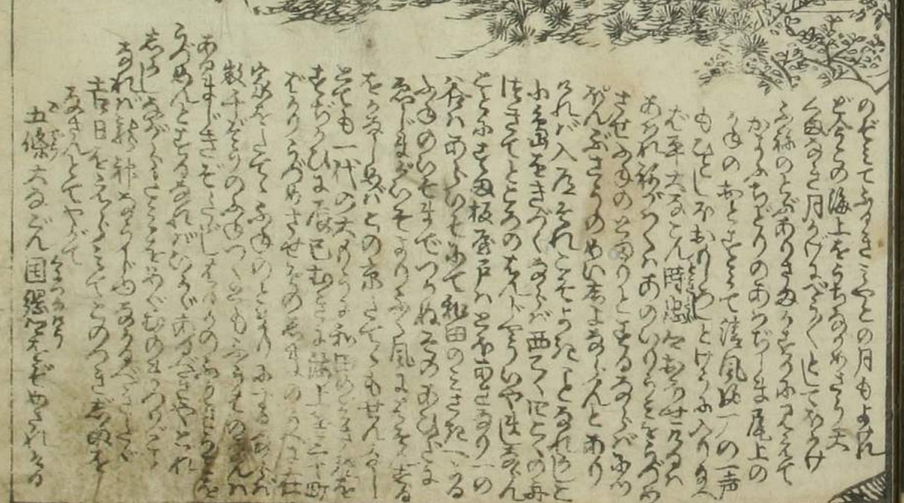
こゝに左右武将の英名を汐くるうのもれた中より盛大至類のがうけの平公清盛なるべし策謀の才士おわしをはくも其職諸守府よりきびし法令の累官して一品ものぐり朝政おのれ思あり威稜をまよ入る一門一族のわかさかるひい台閣みな列しあるひい亞相黄門ゆ至り又そ左右の林を竜祢金吾武衛の職をたゞさゞる和哥管絃の驕をきはめ錦繡綾羅身ゆまとひ美女酌童ゆよりちらり山波羅のやゝ西八条の亭小松池殿門張等の類族いらゝ次ぎくべ比列せりまたゝ金長許史ゆ貴ゆも石崇王愷が富とゆくもたるゆたふ仮そのむとゆ皇后とゆりて皇子をうめり清基ハ外戚の舅として権威いよく盛ゆ世ゆ四海こゝくもれ安居して天下ところとやそんびまことに多双の英傑なりその先祖をゝぶれゆ桓武天皇第五の皇子一品式部卿葛原の親王九代の後胤漢故る正盛が孫刑部卿忠盛の嫡男なり仁安三年十月剃髮して法名淨海とぞゝのる時ゆ入道清盛ゆ名ゝられ福原へ都を遷さゞるそもく桓武天皇ゆこゝ平安城とゝ宅りそのちゝ百年を経くかゝるゆ平氏四代お應の地なれゆ平安城とゝゆけたりまゝも平氏のあがむゞきあるゆ入道ゆ福原ゆぞゝられる帝をゞめ奉り大臣公卿とゞくゝうつりまゝ世ゆつゝるゆどの人ハ誰う残るゆのゆ官位よおすひをうけ主君のゆゞをたのむゆどの人ハ一日ゆりとも安くうくんとゞゞめひ

あれとて家とゞもてハ淀川よりゞゞ大路いちまらゆ田畠とゆり薮をゆくべ禁闕渚暑もへんで荒壁とゆる今ハとやゆきゆふくもまゝてゝゆゝとあさゆゝたゆりさまなこと

福原の新内裏月見の宴





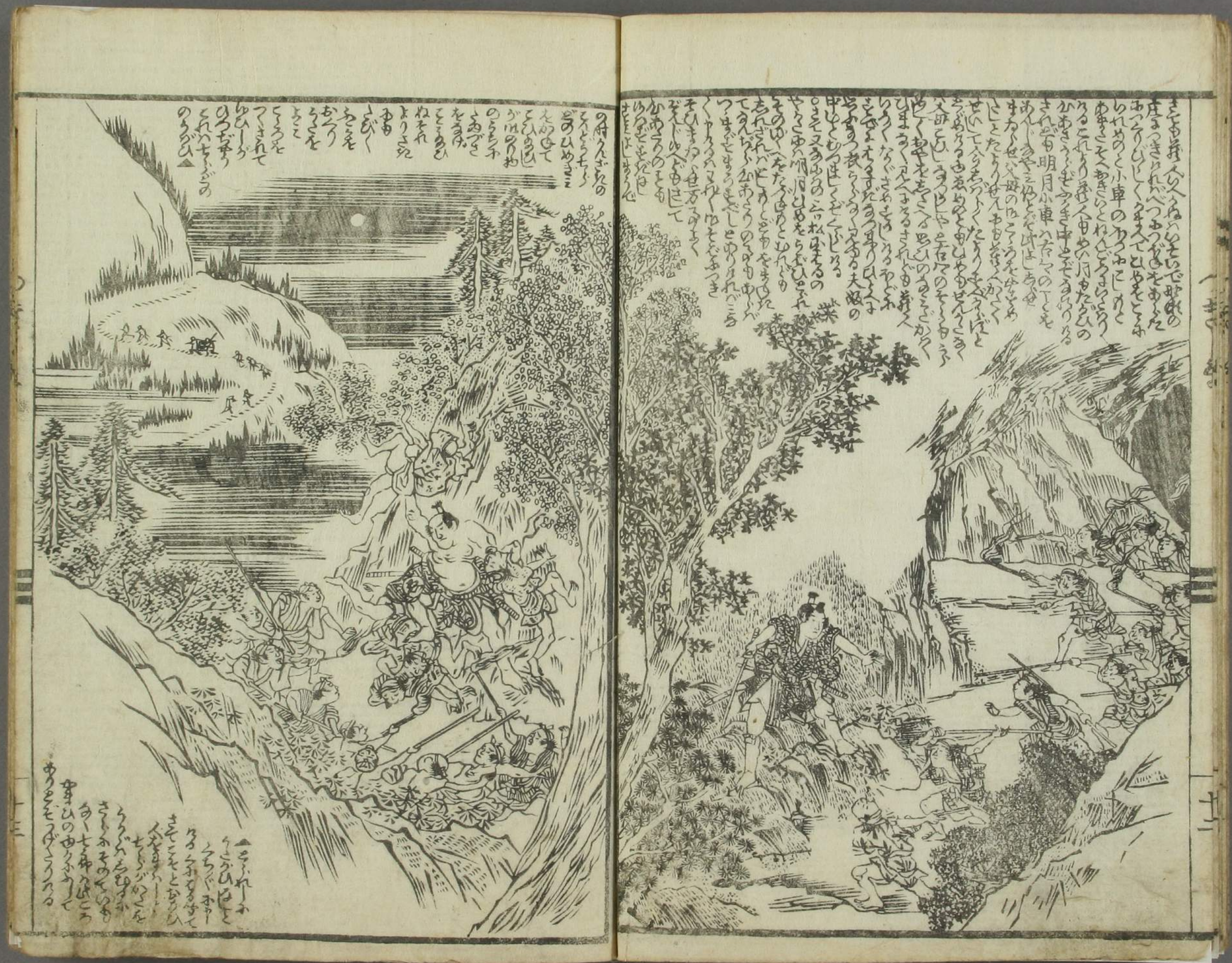


三馬作
周貞画

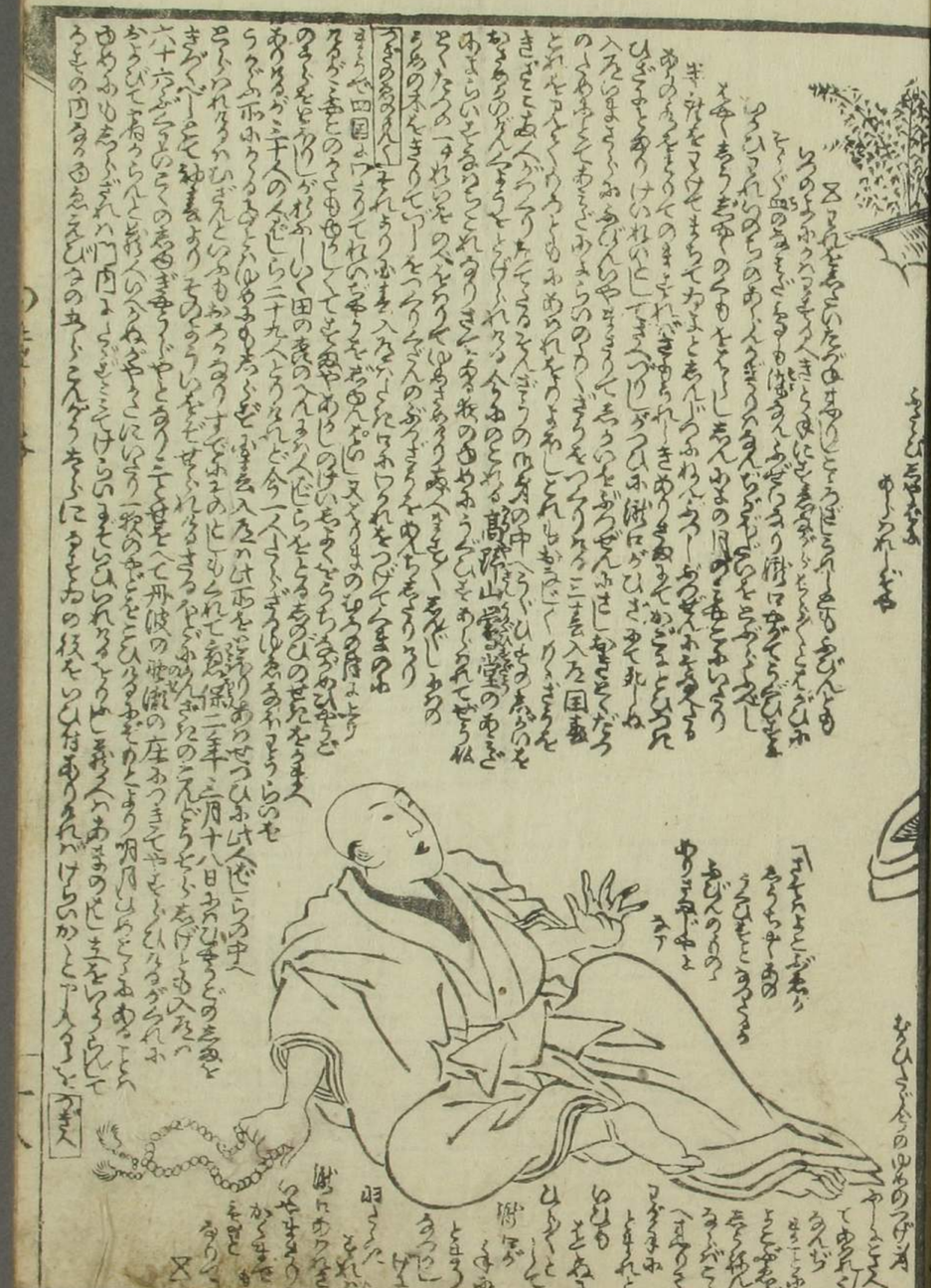
人柱の新関

巻之三
明月ひめ
仁安元年

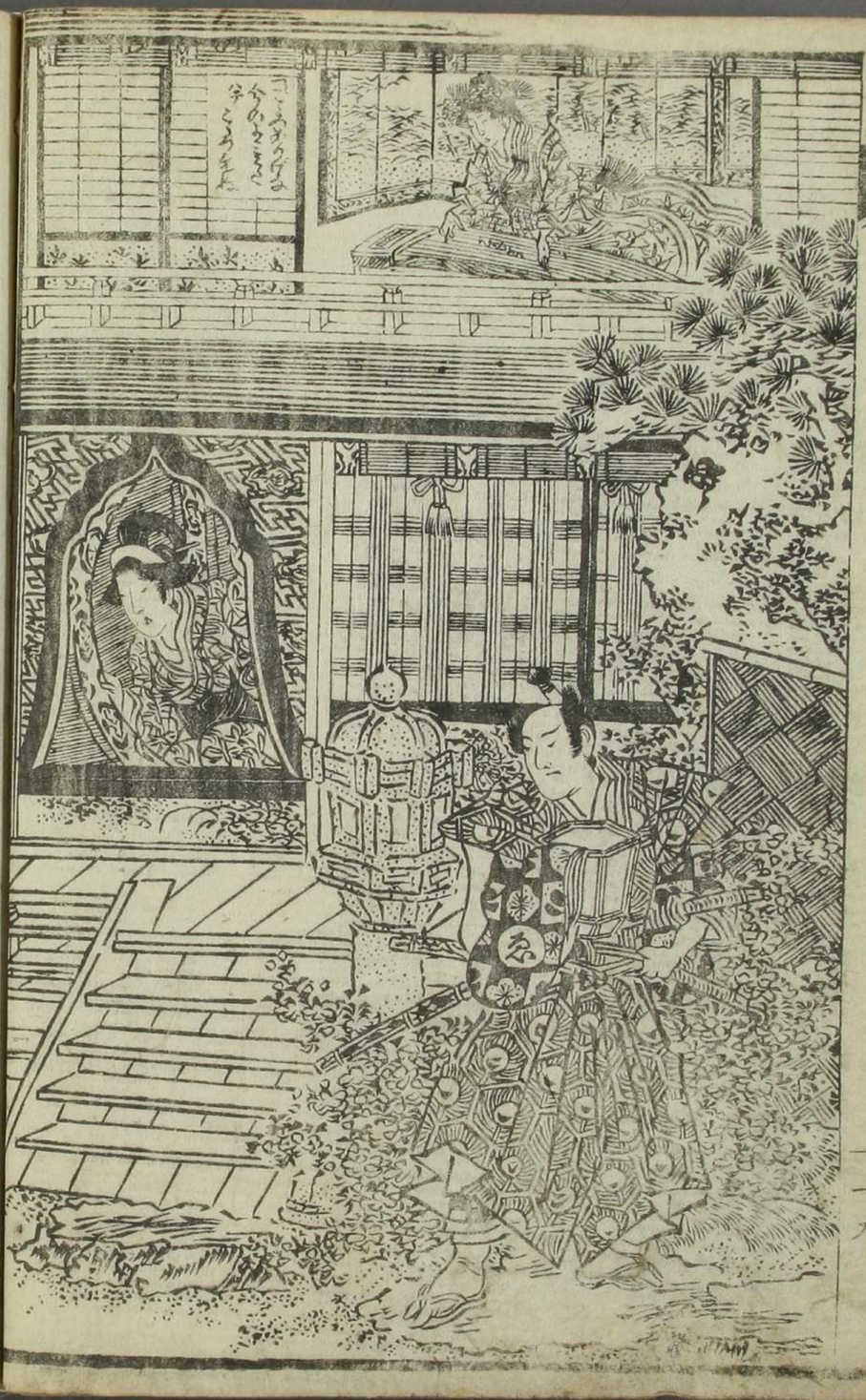
○野漢義人舎兼
のせこんどう
らにゝろのろくろと月月ひをえそもろ
「ハテこりゃ」
「あへア」



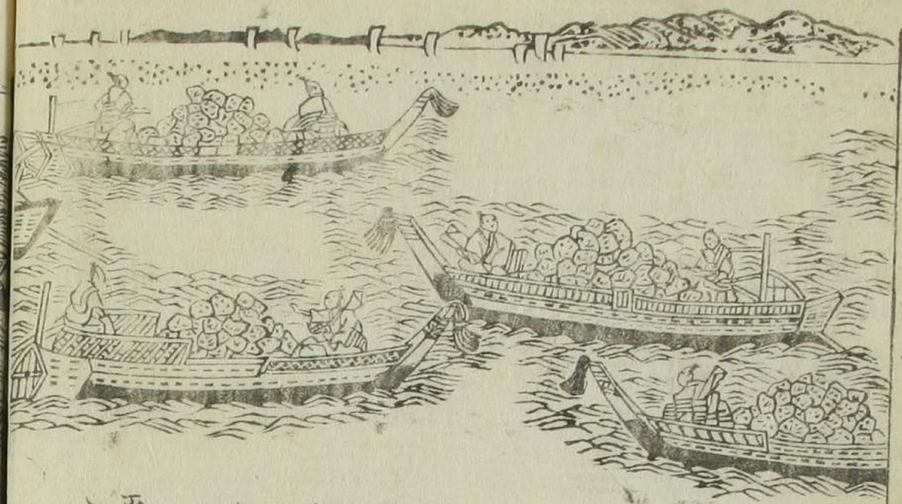
妻子珍寶及王位臨命終時不隨者



つゞき



つぎへ

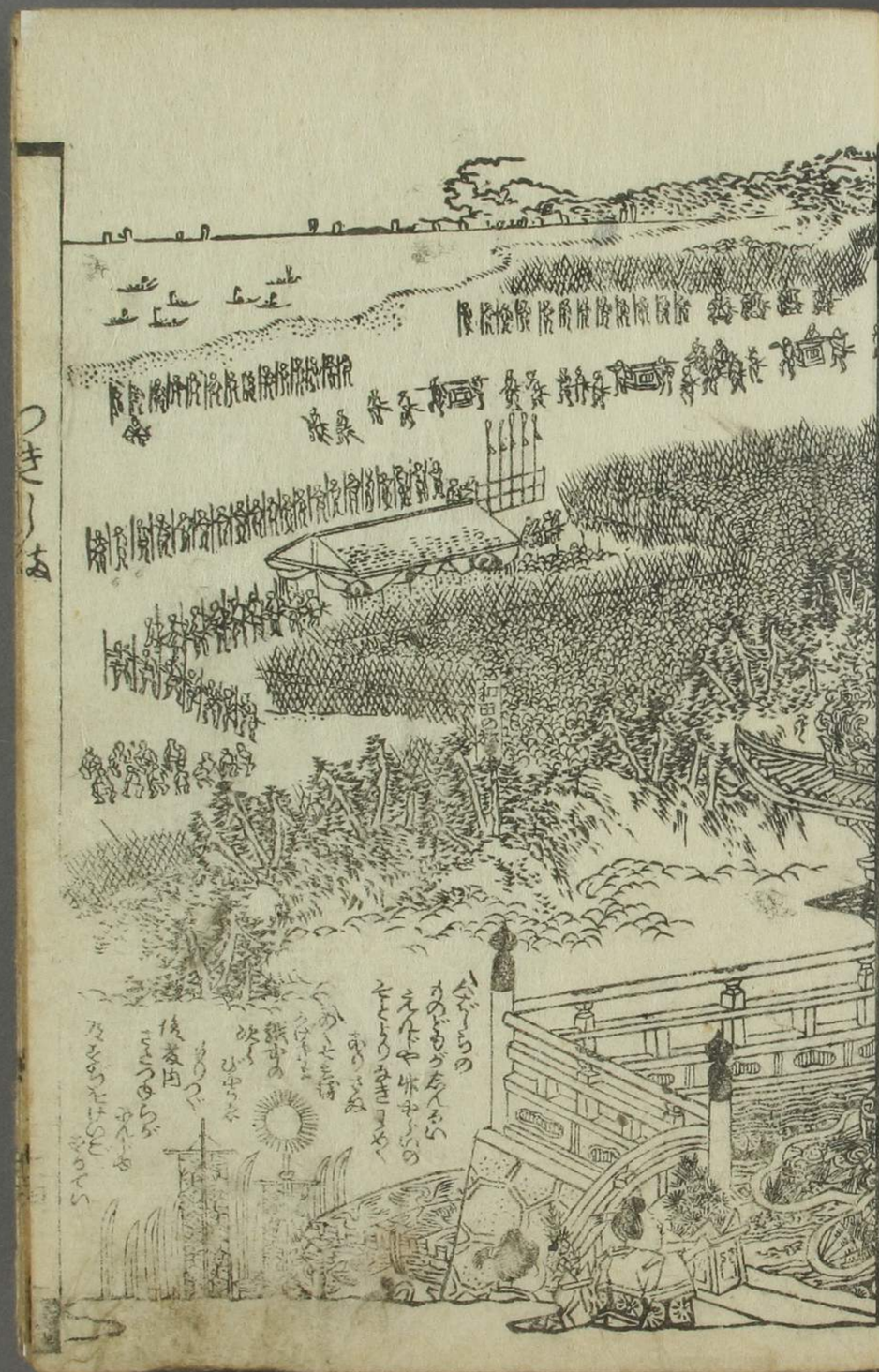


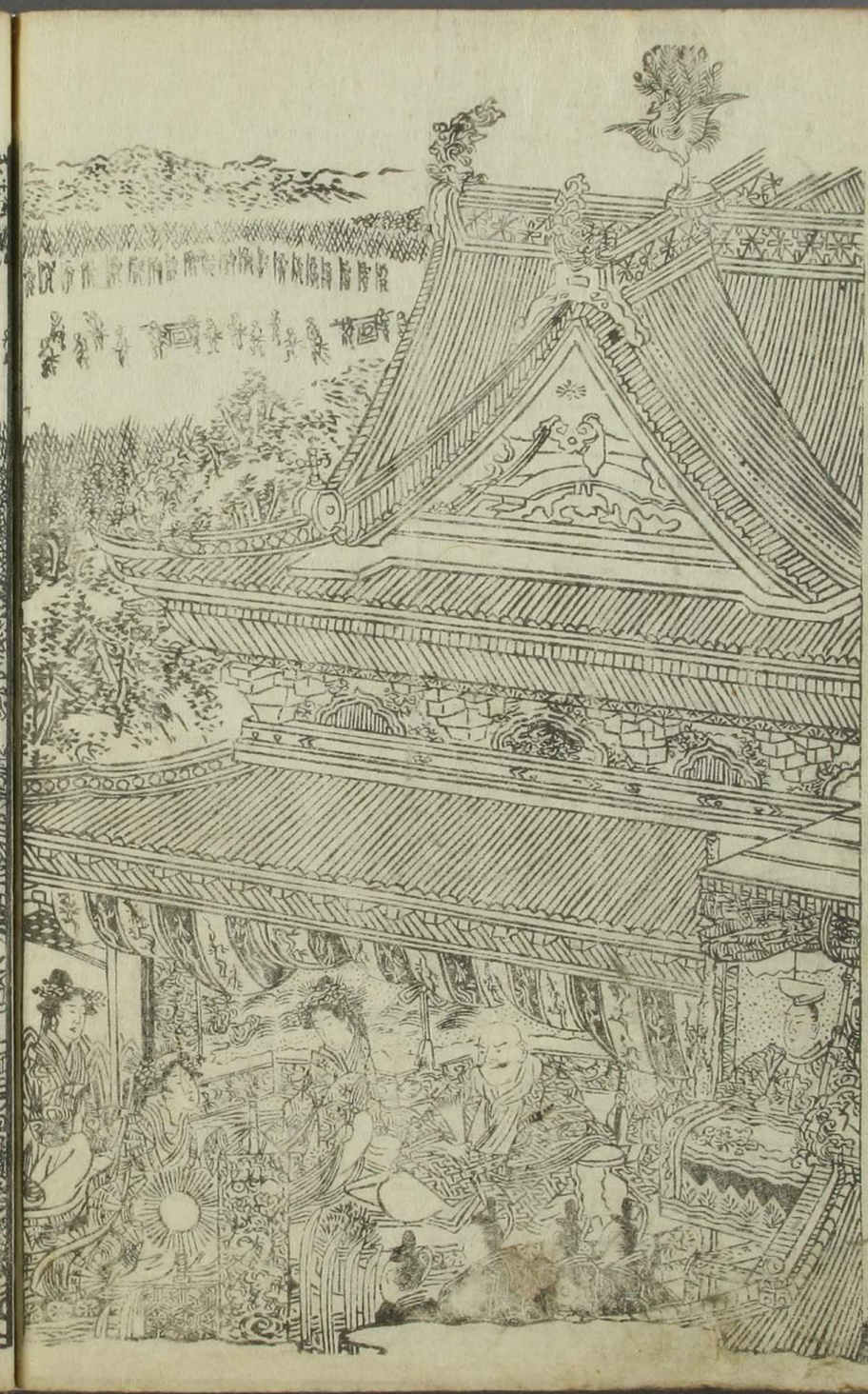
つづき　国はさまゆもかくこそとしあるとこりあまりうきげくがうきびんがる明日
和田のこさきくまるべ〜おや子のたのめんゆゆ〜ふんとらとさそこぞ
入りうかふうこれ今きふたりきゆゆもえるねむせどうりだらくゆ
こちろうりたびひふうをえ月のせてきうりあくんうりうきんゆ
をたくひたとりを鈴すーわやくごくとの国ふまどのれ月がうよ
ふでめぐきうるねまどもねがうんとありければ明月ひめうこどせれ
あどしていを〜ふうとふ孝ふ義のすうけは月がうりおさべなきく
君はあふふみぐくるひ法世のふぶうひふのこもるとゆゆふ武人
ふうびうちりやとまのふ孝をさせうるもみるぶくかるうぶうり
ふ義のらひうけれびこそうこそべれえどのうそ、みどもをとひおい
ふうが父やうう〜ひして家さうどうをたのひどとうこそふうふ姫が孔を
めふふもひ月まうびでぞうきふうるうどゆふのの日にありれべうるく
さぶうのどくくのうりのをどくやゆかきられあくびらのけのをのけひどの
武士武の侯をかこうきあうこのを石をがふ移ゆうこそ紙りうさうに人ひとう
ゆとさぶあるるうをどゆやらのをあひてあぶゆ〜ゆうれいどそかの
くんうりらにうふれ〜ゆの〜一門そんぞくちんういえんびやこふ牛ぶきのそと
ゆありていうれをうびをたひあんを祈がひくをせうのとあうほくふれ
さけぶうあひうぶちのびしけいどの武士ハこくふもうけどかどをそやそ
うれゆけどこうふ牛ぶきふううきてのびゆうり〜さみびうゆ〜む

ゆりうあハ目もゆうくんぶうどあうれうり

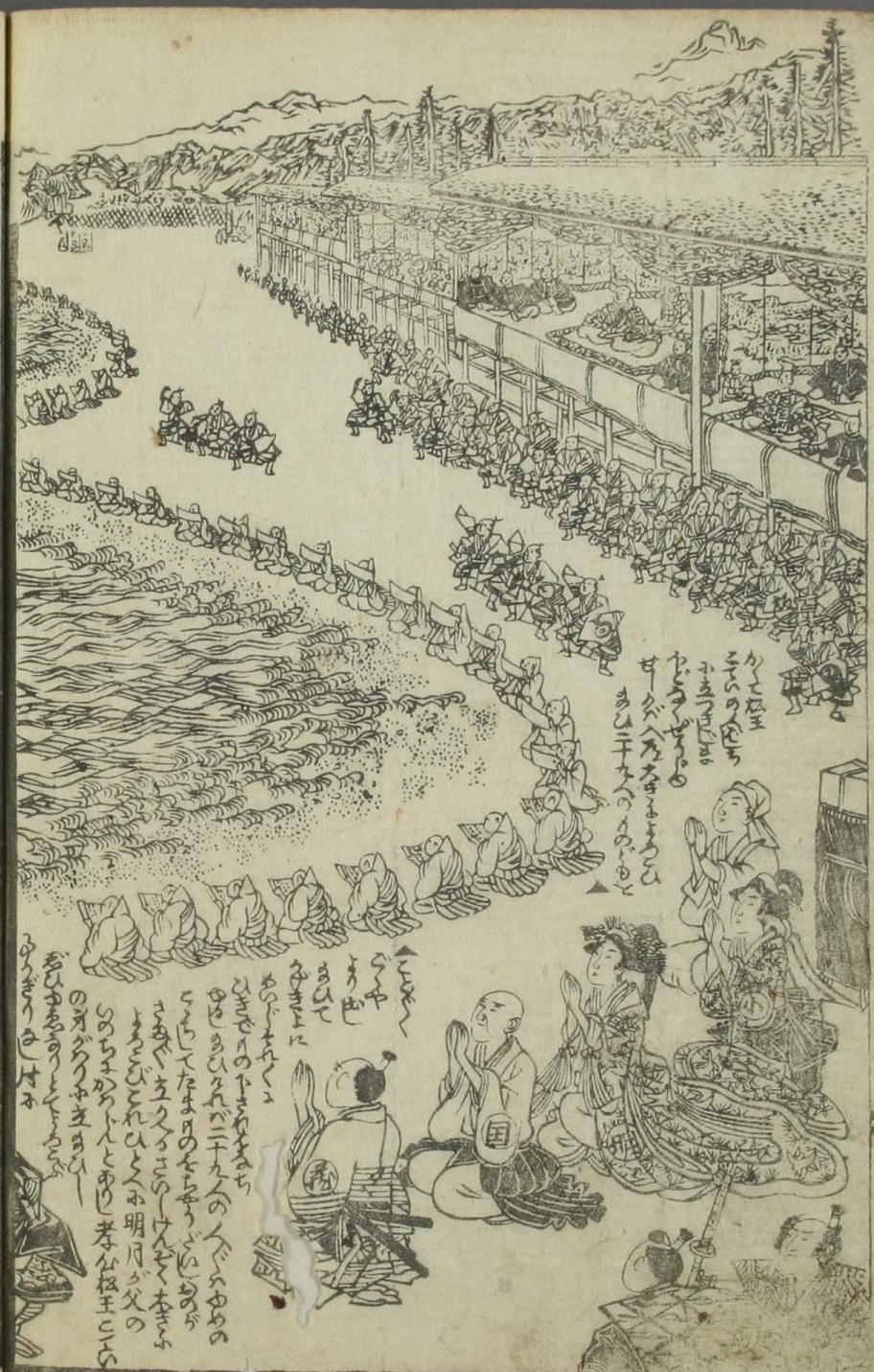
平相國入道ハ和田のこうえの弓うんゆうまうてけんぶうあうとうちゆう臣
とまうまうまうりくをかとうちうゆのゆりひりのぎううぎゆうをとうち
たうよまうりくをかうしまうりうそうえうふ平家の一門二百余人さぶゆうりうそうえうふ
ゆうとぶうのかうゆゆ城中のゆうふびまうゆうりけぶうりひひうと

いまーゆったゆうとくゆ〜ゆうたゆうとくゆ〜ゆうたゆうとくゆ〜ゆうた

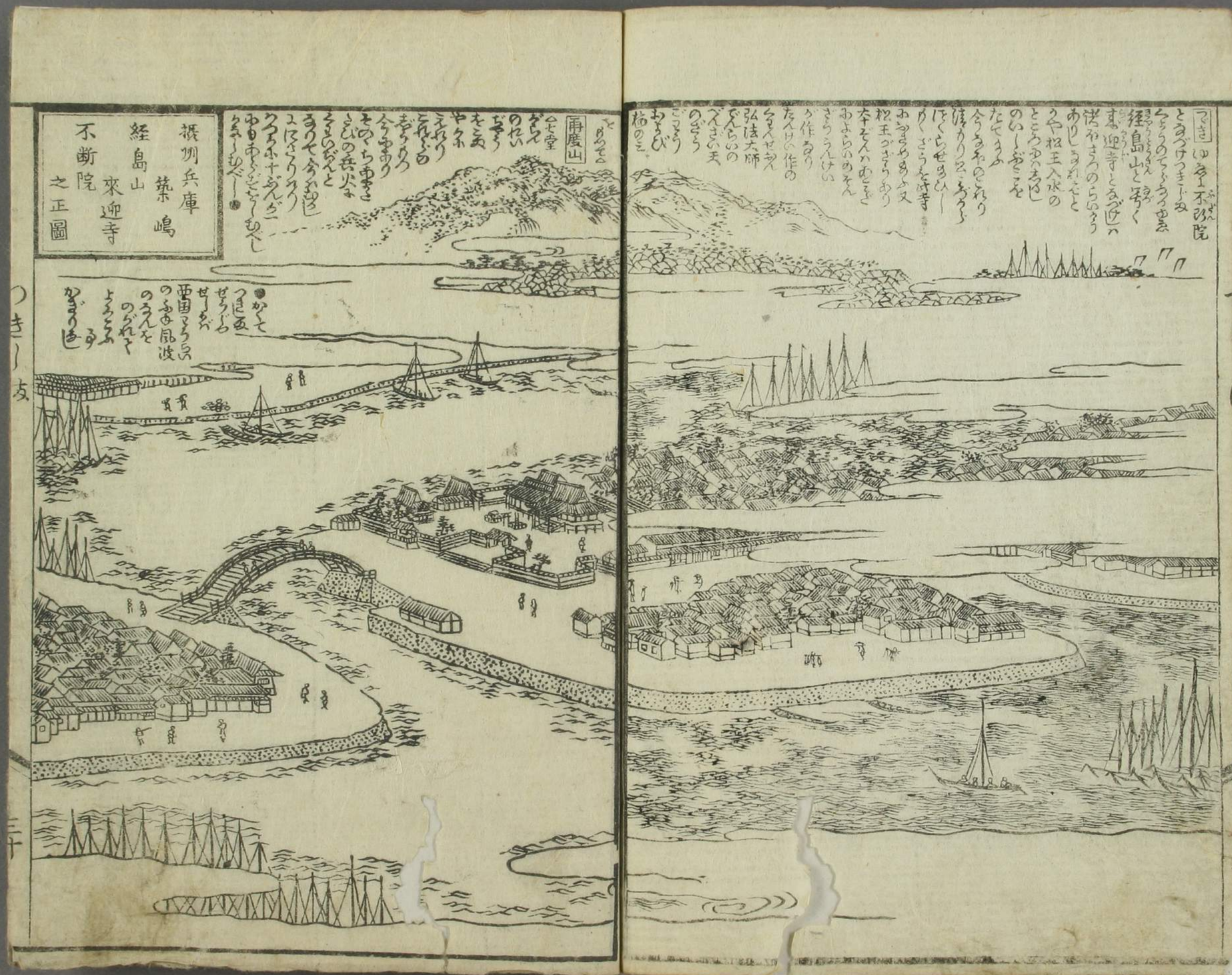

つきしま



六之巻



摂州兵庫
築嶋
経島山
來迎寺
不断院
之正圖



三馬作
彫工 菊地茂兵衛刀
鶴金版
北川雄改
十八歳 小川美丸画
口上